

所公千  
597  
3



新法大師は傳法を承て

目録

惠果和尙よは法華并灌頂の事  
 順鏡阿闍梨亦子孫の事  
 守敏大僧(護法)の事  
 惠果は入唐再来の事  
 惠果和尙の御記と書翰の事  
 別記(目録)と法とあげ給ふ事

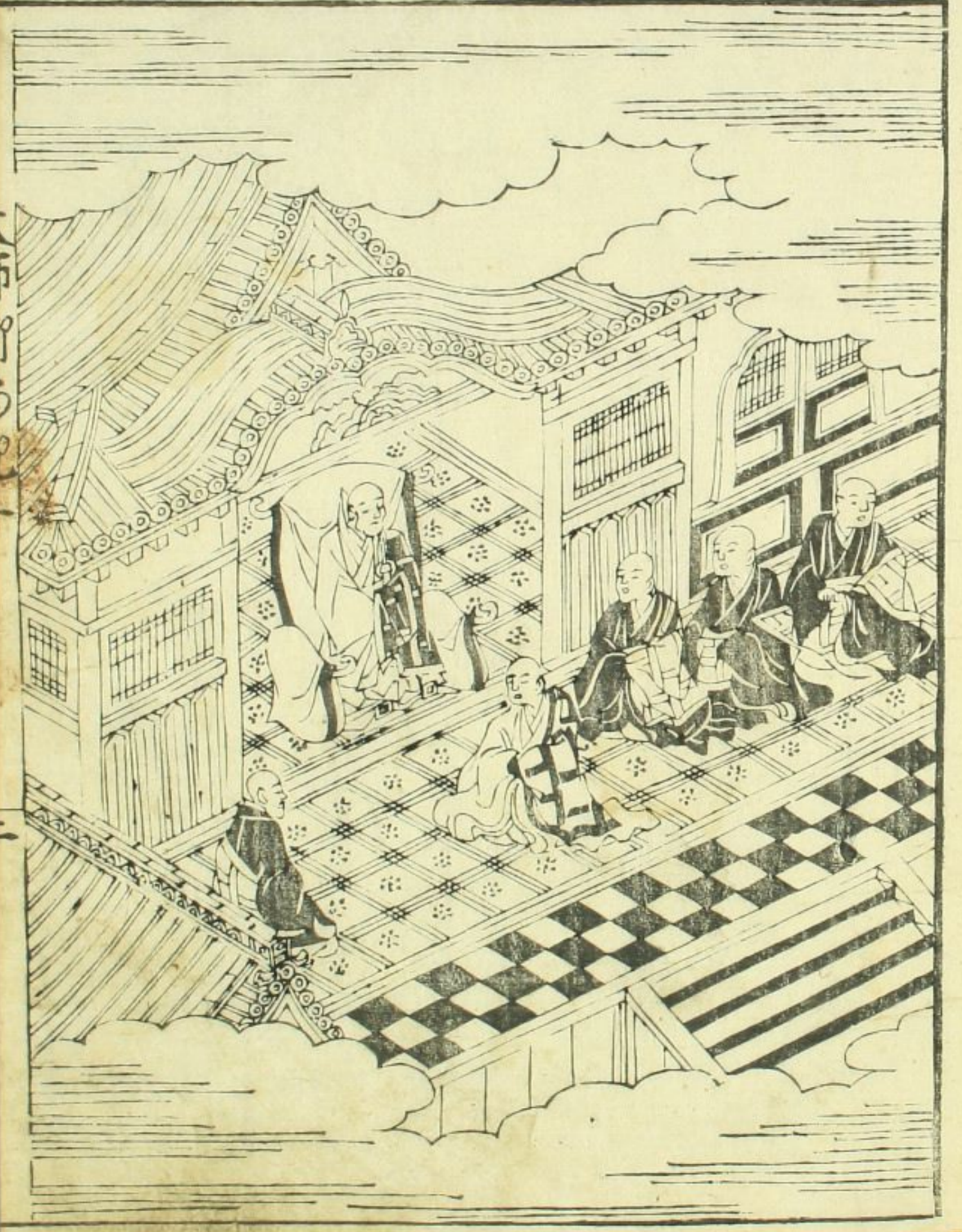
御歸朝夢

大正御紀卷第三

さふかやとりの海和島橋をわりてほも  
 又あゆむの夜はよとまをせ給ひうらぶあゆ  
 彩は乃海をうらうましくてあつのか  
 一と此里こそ免うりての法乃御と  
 免ありさあひしはまを給るの魚果和島  
 とやをいんましくけつげわ高しや  
 ころのハ大身若るあそと苑の御子  
 高島の大祖大日ぬ集らるて七葉乃橋あり  
 されじ二代乃みりともらんぢやうと  
 しい御子の御子も高島とあつぬ徳の

大正御紀

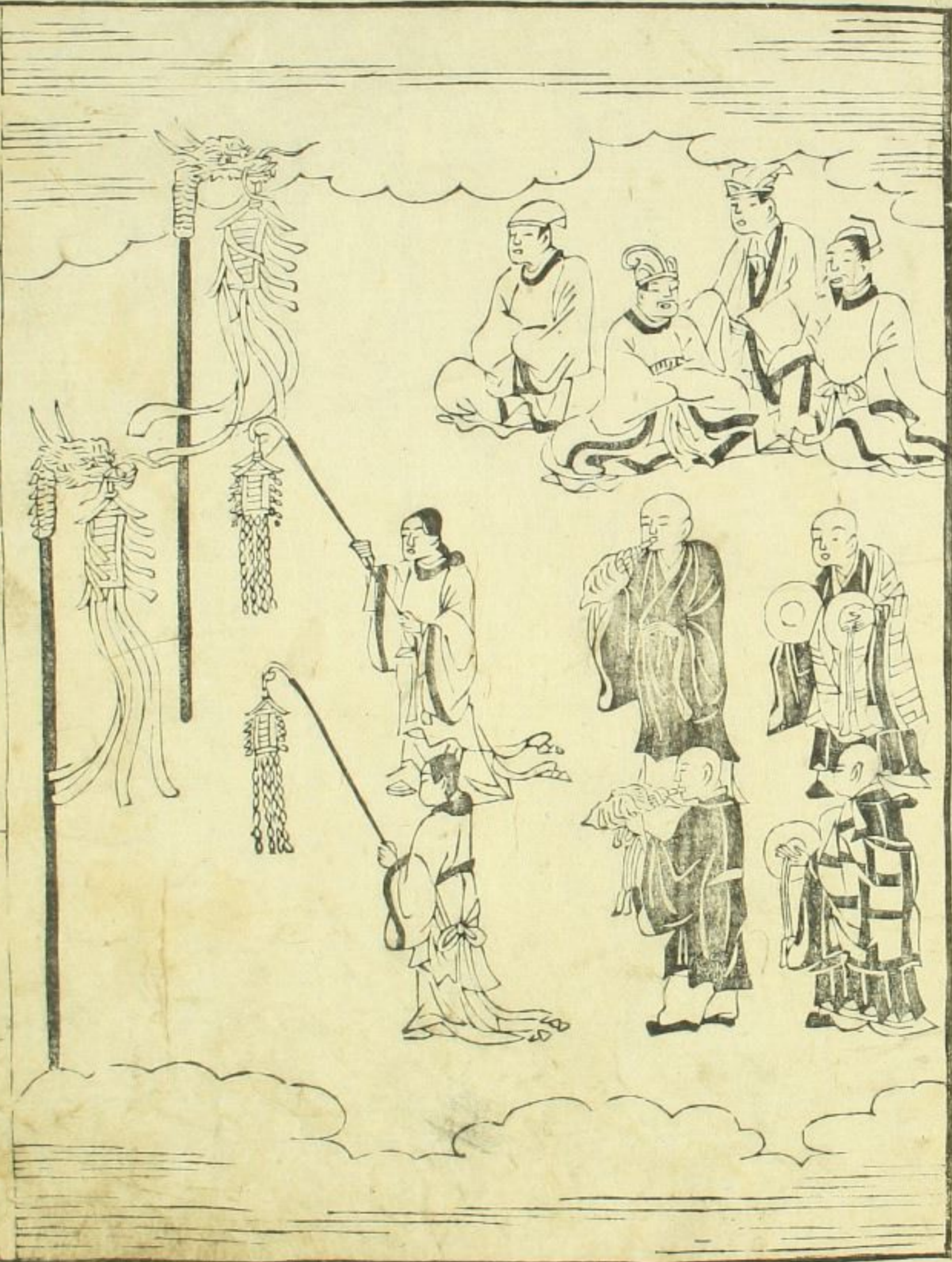
くにきかりりて人天の師とて人々を  
 導く。おぼしめしん<sup>くわん</sup>とてたまひておぼしめし  
 僧志の法徳を乃又六人の傳らんとすもな  
 ひき<sup>しん</sup>とて徳果<sup>とく</sup>おぼしめしん<sup>くわん</sup>とて  
 一は<sup>しん</sup>おぼしめしん<sup>くわん</sup>とて徳果<sup>とく</sup>おぼしめしん<sup>くわん</sup>  
 とて<sup>しん</sup>おぼしめしん<sup>くわん</sup>とて徳果<sup>とく</sup>おぼしめしん<sup>くわん</sup>  
 ら<sup>しん</sup>おぼしめしん<sup>くわん</sup>とて徳果<sup>とく</sup>おぼしめしん<sup>くわん</sup>  
 おぼしめしん<sup>くわん</sup>とて徳果<sup>とく</sup>おぼしめしん<sup>くわん</sup>  
 おぼしめしん<sup>くわん</sup>とて徳果<sup>とく</sup>おぼしめしん<sup>くわん</sup>  
 おぼしめしん<sup>くわん</sup>とて徳果<sup>とく</sup>おぼしめしん<sup>くわん</sup>  
 おぼしめしん<sup>くわん</sup>とて徳果<sup>とく</sup>おぼしめしん<sup>くわん</sup>



わいのらさてはよりなりあまじやう御くに  
さめんしん大法とつふあふまうしん命  
めんぢんとやうな者死とらけへて灌頂乃  
檀よ入給くとのこまひきれげんはくちとふ  
あひまの耳とゆぐらうらうも日本を  
あやまん持にありとねさしういふまこ  
りもあり給くぬ。悪果初あるよまうかんを給くを  
初あつあまよは付はの事どのいましむら  
けんとはまらありしころほいあけはるん  
げとはひかぐまのらうあふあふとらら  
こしたたあふいこまをれを運とてお海くらん

らやうしんまうしんまうしんまうしん  
て。者死とらけのくを給くらうらうたまひて  
月上旬う胎産つらんらうとらけは坊  
をまひせ月上旬よ産割界乃穢信とら  
あ。八月よあめんよ信は初果の灌頂とら  
けたまひけはけは初果の信とまうを  
てあまの御まはかりあひしんはま  
あ大具者もの大徳みふとらけらうのそ  
ひくあひしんまうしんまうしんまうしん  
しんまうしん

大正御紀









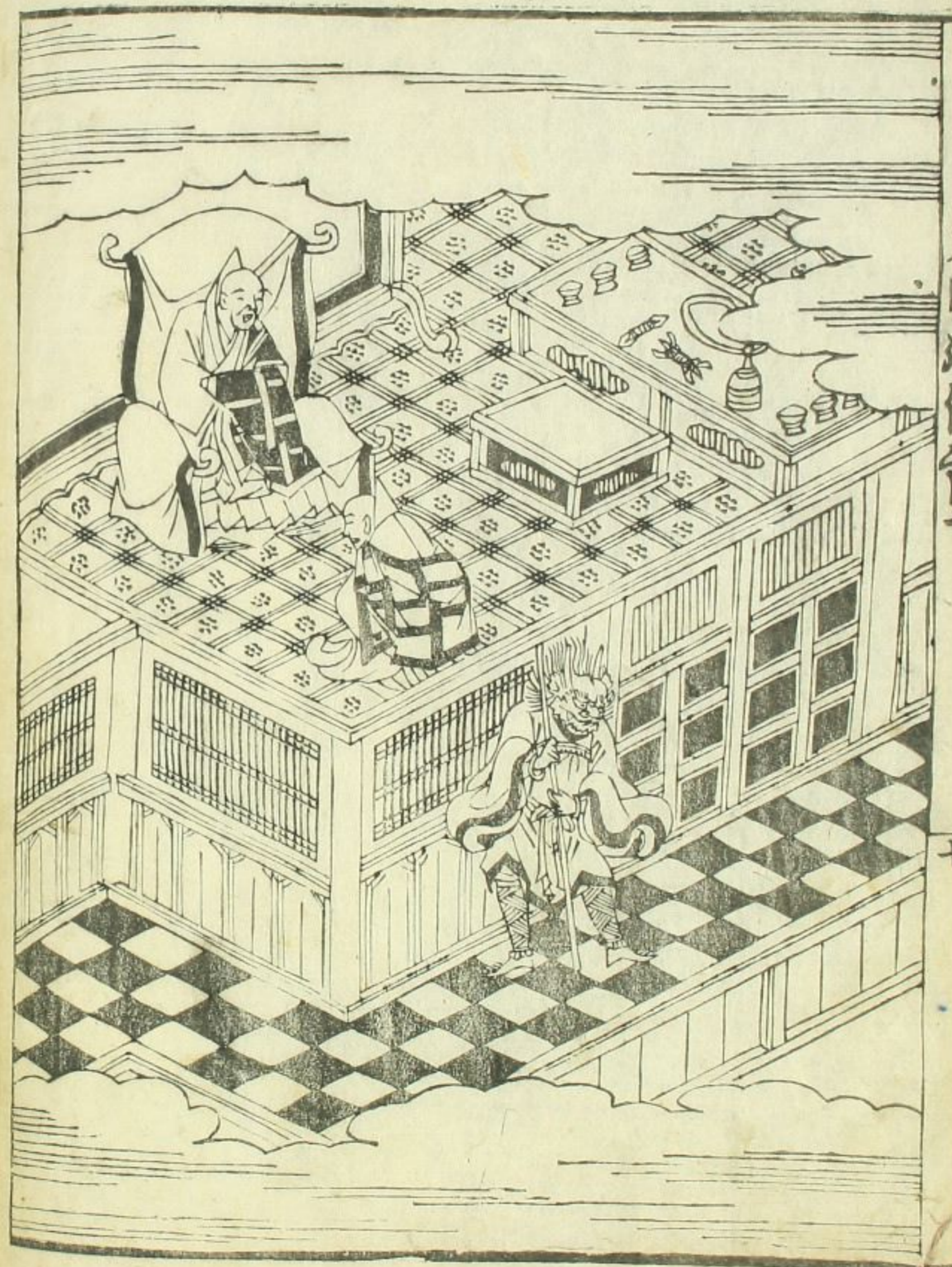
大徳記卷之三  
七

まれけあひい聖人の徳はとそわいし海を  
 をけりやこひ田天乃世めさうを令續  
 とられんともいふがたろくたろあてん乃い  
 たもところありいまゝわらそ乃ちとじらも  
 聖人よまぬくやそとらうかゝいしよか  
 節一始とくつとそとるんんてけくは又我初  
 蘭系乃山階乃よあひんそらうに人  
 多り年飛たにこそそそ兼日つものわりけ  
 きはまふあそてそ海乃ちあらよそ  
 とそらうかゝくの後海おはあそを  
 とかるかといふありしとそ人たはらうん

とあそて暫守教者ち徳はと流うて徳はのん  
 牙とまきう勢けるわあ勝能乃はと徳くまびら  
 時の徳は浄堂の戒壇乃かそりまありま  
 とわあ山階乃よあひんそらうに人たはらう  
 海乃ちより神徳力されいあわとあらう一先  
 ち乃重割界乃大法とまきうかたよそら  
 とまに徳はあまのまそとつことありはと  
 ちんそそやとらとらとらとて魔の出入あ  
 うらうまうまうだ

大徳記卷之三

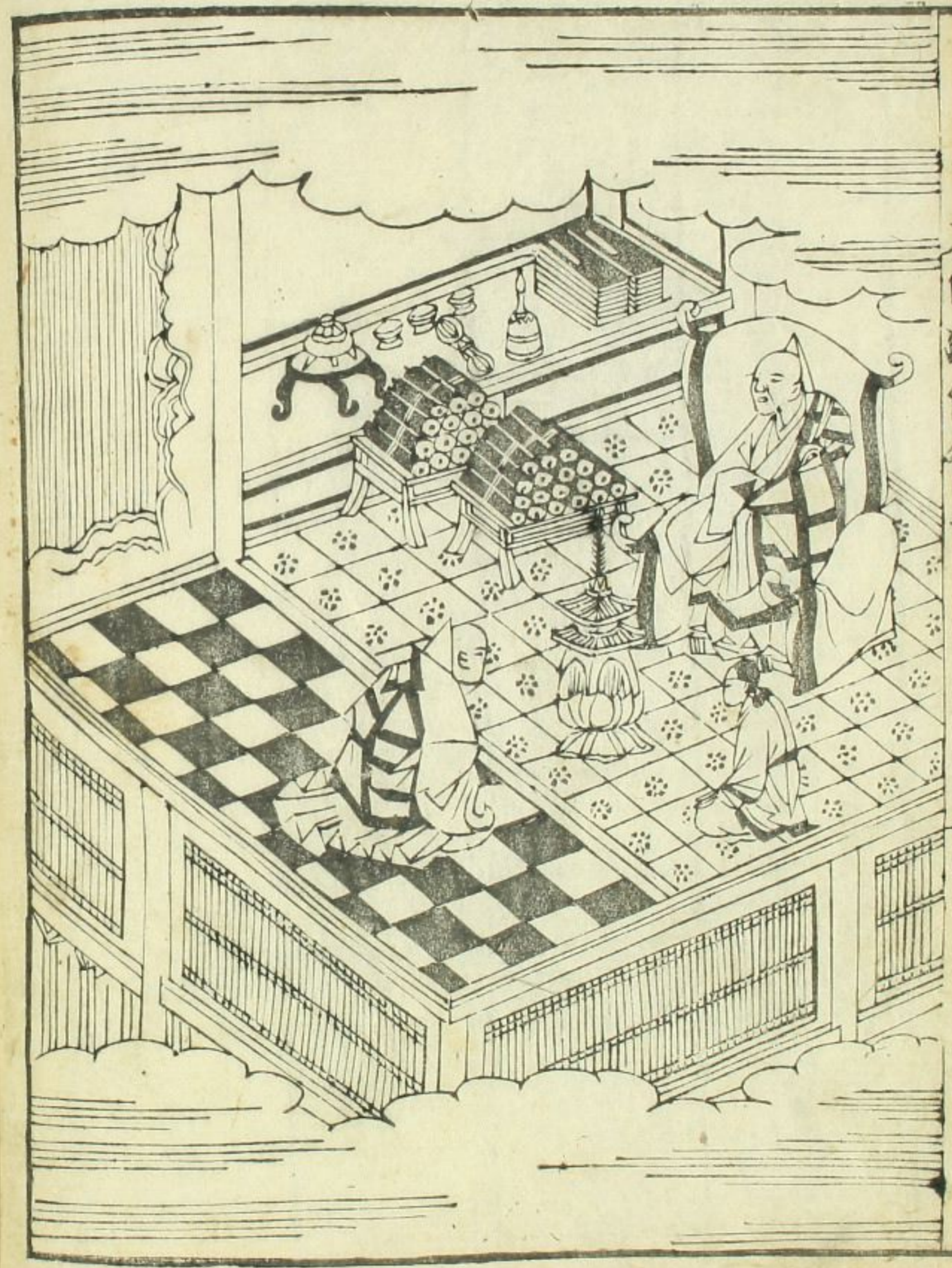
かの獲はれをきねとあてらるるきなる事あり  
 ひめくよりしとやありさるる事あり  
 うおかふき海さげらもれかくりし  
 とよもぎんじやの男あまはのころん大  
 秘法ひりつとつてんきりありさるる事あり  
 は乃那はな惠果ゑかある日と経月とさるる事あり  
 此の朝あさ毎まいうやくちのさるる事あり  
 此物このものとありしとて宣海のりうみに附つ属ぞくし給たまひなり  
 和わあるましまひけつとてあぶあぶのたは二百金にひゃくきん  
 の金割きんわり葉はのはおろしとて花はな付つの物ものありし  
 修しゆ業ぎやうの奥おくありんぢ頂ちやう戴たいして海うみ内うちにありし



大正  
 十  
 年  
 十  
 月  
 十  
 日

一と云はれしを織し如ひまれのを海も余る  
くさるたれしを織し如ひまれのを海も余る  
さ中一と云はれしを織し如ひまれのを海も余る  
利一粒織絶教子の家世を承けおられ傳  
法界に万生の歸依なりと云はれしは  
ありし所なりと云はれしは  
寶物とぞんども志あひて見奉りよつて  
乃まらざるありし事善くもはあれは  
く所ふんを承けしは  
むくしと云はれしは  
ありし所なりと云はれしは

一と云はれしを織し如ひまれのを海も余る  
くさるたれしを織し如ひまれのを海も余る  
さ中一と云はれしを織し如ひまれのを海も余る  
利一粒織絶教子の家世を承けおられ傳  
法界に万生の歸依なりと云はれしは  
ありし所なりと云はれしは  
寶物とぞんども志あひて見奉りよつて  
乃まらざるありし事善くもはあれは  
く所ふんを承けしは  
むくしと云はれしは  
ありし所なりと云はれしは

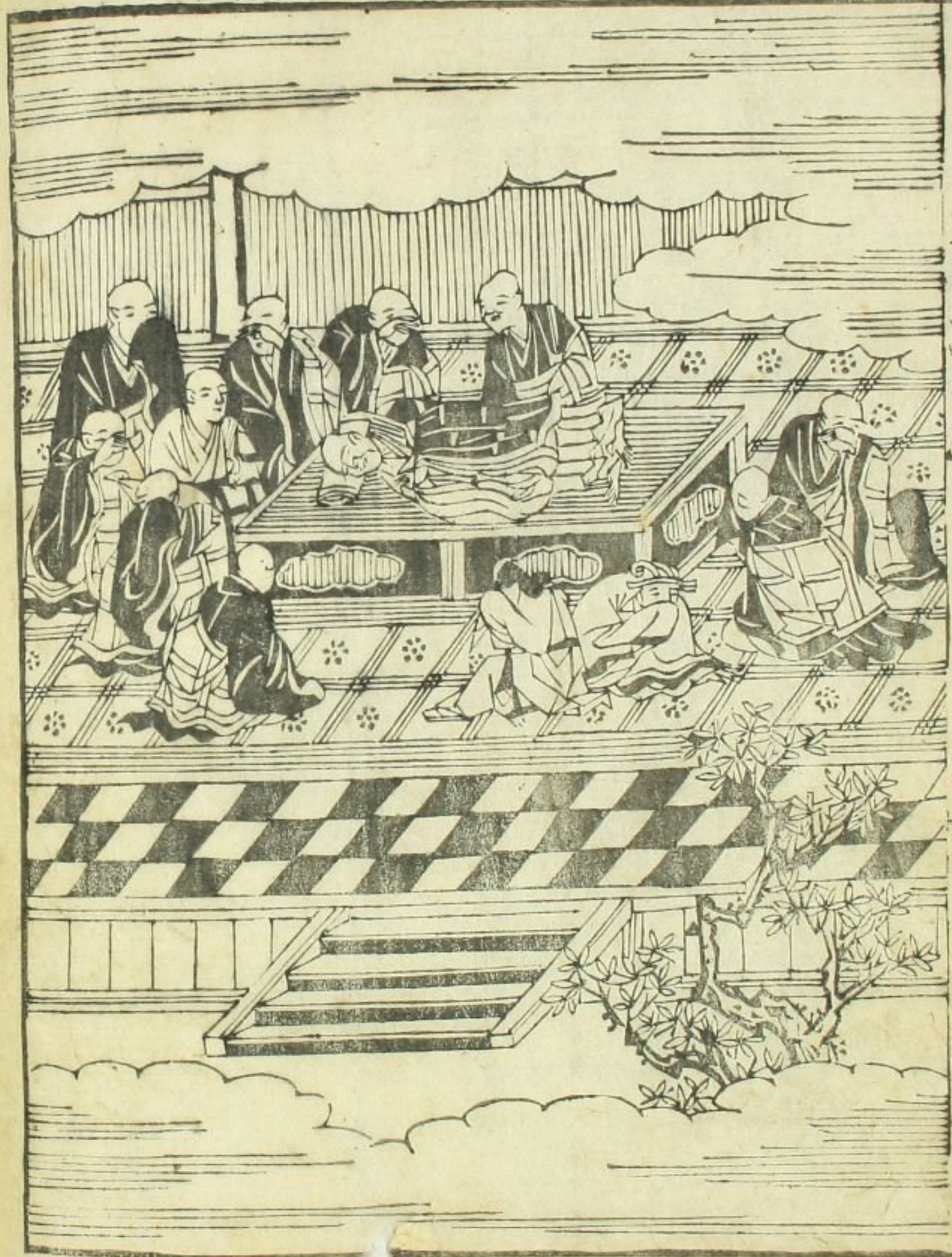


何邊の奇蹟と新羅の惠目と母は胎前  
 仰位とさぐく銀面の惟とくはかの義弟と  
 へ金對男乃大はとつて人義の修養とあ  
 部の大はと授くいまあんぢめあぬ秘奥  
 禮儀と下拜と僅焼たりふあゝあゝとく見と  
 つけとらんぬぢめ瓶とつとつとあゝとく見と  
 け系何と月入ゆつとあゝとつとく見と  
 けの乃とつとつとあゝとつとく見と  
 来しとぞとよめつとあゝとつとく見と  
 ろろつにあんぢめとつとつとあゝとつとく見と  
 とけとあゝとつとつとあゝとつとく見と

大和物語

ことりめく大はとつて一こひんよかけ  
 名にたとけよあげりける程ありわづら  
 の移んがんとぞよなるぬけ程はとあんなら  
 天におむらるるつこあまははこあま  
 移く一さいのちめやうとさうとあんなら  
 らは佛恩師様とわづらするあんな義的  
 せいはあひあしてつこあんならあま  
 まらふははとらうとびくたもらあひめく  
 たらそんあまきまき。移んがらよき言ま  
 しくと唐永貞の十月十日の業湯  
 よあうとさうとひんはたしとびくたもら

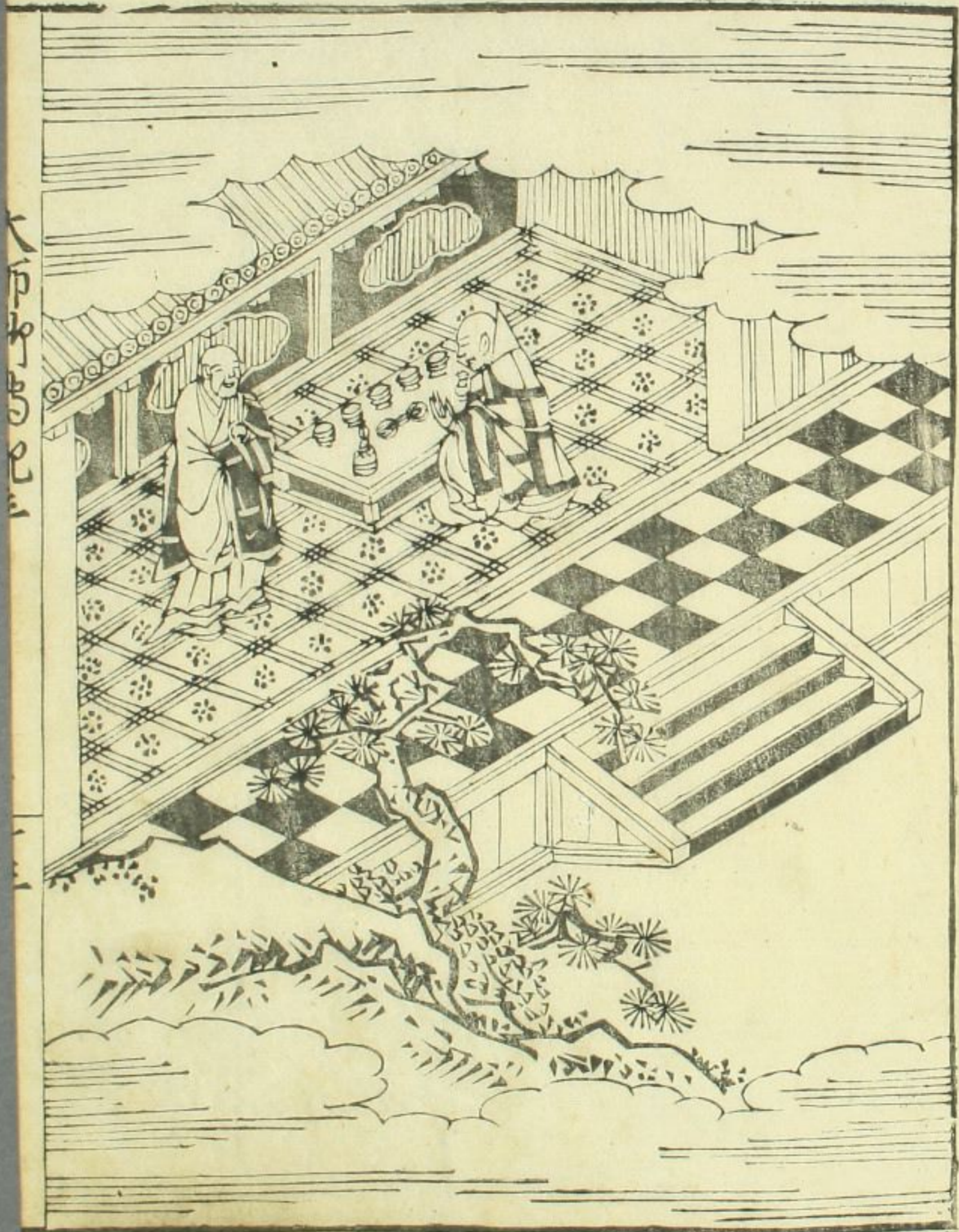
してつあまあまのあひねあまの四年  
 六十とや日中乃と唐二年四年はあまら  
 されはあまとらうとあまらるるあまら  
 真善寺乃字徒そのかうんせれとあま  
 してあまらるるわんてあまらるるあまら  
 き海乃装束してせきあまらるるあまら  
 今乃あまらるるあまらるるあまらるるあまらるる



九十九

そとくけいねるにアハるいあははは  
 づら園のためあはは父母あり。天下のを  
 けりあひびしていりよひすささり。ゆ  
 其まごもあひ乃ちとあくこちり。あ  
 ころそのはあちり。まりくけりあ  
 一しあひさこれけりあり。ま  
 しいのあまらよるあまら入  
 なるはたりのあつ。あまら母  
 いたちりしあひて。あまら  
 とあひくけりあまらあまら  
 まりてのあまらあまらあまら

九十九



和為宗<sup>えいしん</sup>とてを海乃内<sup>うみのうち</sup>よざんド  
 ぞとを<sup>と</sup>おも<sup>も</sup>その<sup>その</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>と<sup>と</sup>さ<sup>さ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>  
 げの<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>と<sup>と</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>れ<sup>れ</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>う<sup>う</sup>あ<sup>あ</sup>た<sup>た</sup>し<sup>し</sup>く  
 々<sup>々</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>え<sup>え</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>  
 ね<sup>ね</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>  
 ぬ<sup>ぬ</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>  
 か<sup>か</sup>う<sup>う</sup>べ<sup>べ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>  
 け<sup>け</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>  
 い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>  
 せ<sup>せ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>  
 ひ<sup>ひ</sup>ほ<sup>ほ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>

和為宗  
 三

廿一

されはありしこみしてあらんし一師<sup>あ</sup>災とあ  
 りし一も一もなぬのこあてにけりまはあんら  
 よすもそりりしるのほとらづくまはあ  
 ねんぬよれつひよ縁ひしこたりぬあ  
 らあひあして我<sup>ま</sup>思とせしと我まこあ  
 せしあもあんらるあまこもんもさ  
 らもさるもあれはあまらあんの  
 たまひしてあけりしをたしかりあ  
 けりりしりあまりしあてはあはあり  
 るあしこあありまは師<sup>あ</sup>災ららり  
 わりりしあまのありりるあまらり

たうしにありしこみしてあらんし  
 りりしりあまらりしあてはあはあり  
 年のあまらりしあてはあはあり  
 りりしりあまらりしあてはあはあり  
 こしあまらりしあてはあはあり  
 あはあまらりしあてはあはあり  
 ひくはあまらりしあてはあはあり  
 さまらりしあてはあはあり  
 足<sup>あ</sup>まらりしあてはあはあり  
 りりしりあまらりしあてはあはあり  
 りりしりあまらりしあてはあはあり  
 りりしりあまらりしあてはあはあり

舟師御記

廿三





こそその私のふりわすりけり  
 哀悔我力歸非我志我以物了我  
 願く朝教良矣相成既く夕櫻冠  
 此我終去為酒我仰孔宣治臣  
 惟我全放く及不取舉一酒系  
 切めんあそり多れいん  
 きりたうふ堂薩大を乃の方便  
 くれあれうこらとぞんども  
 るふあそびたうひくははとひり  
 ととくいたまふまづんを分  
 くのあそとたうと海がふい

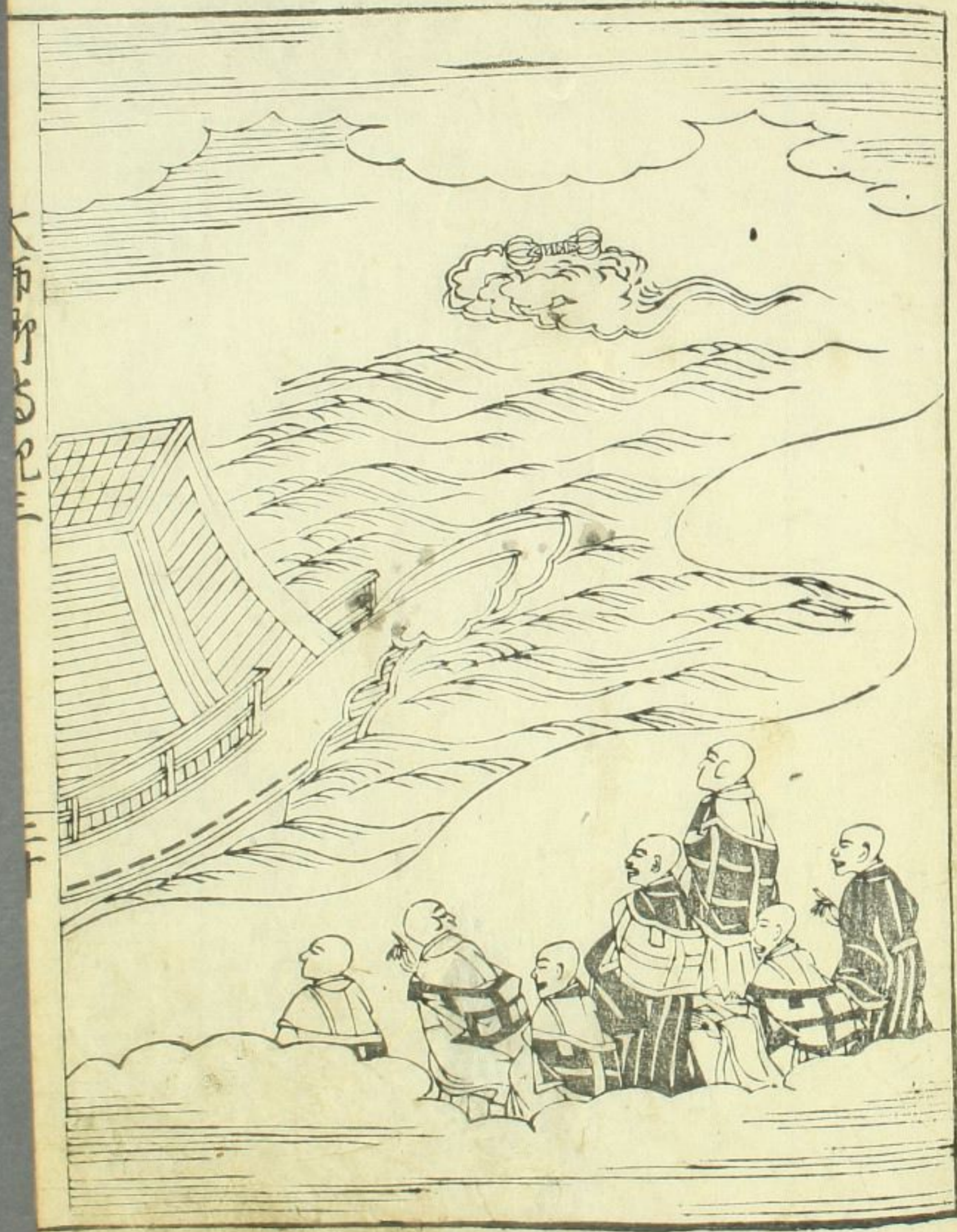
てそ海はり一考一なるは  
 考一考一考一考一考一考一  
 川あとおやあうらまにあ  
 かつていつてふはとむらめ  
 あろあれはら海朝まへ  
 善向ましくして帰一物志  
 まん一好ひまれのんご  
 ひて起こぞとけむり  
 と那能とおみきたくま  
 きてまう一好ひん  
 空海のいまうひ

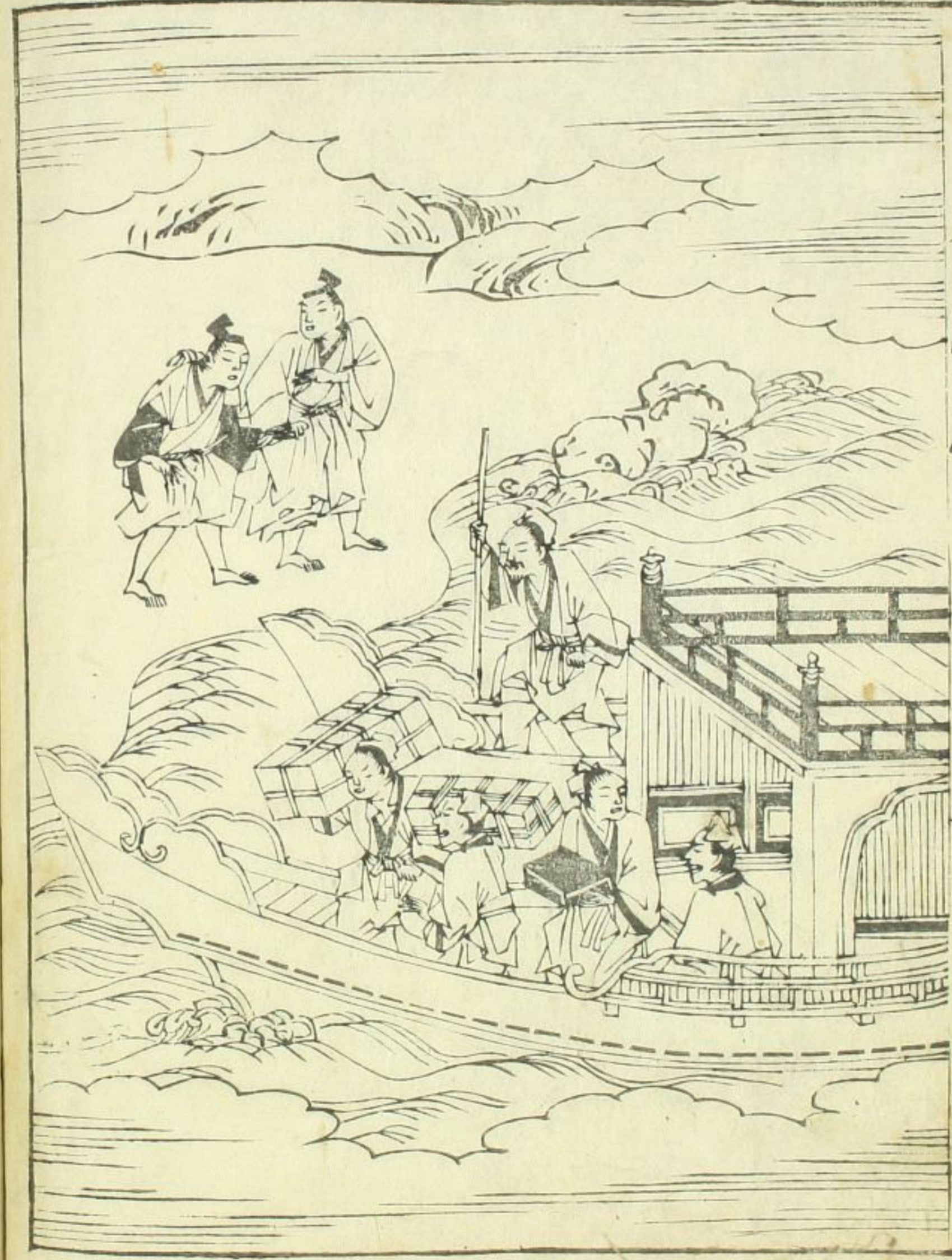
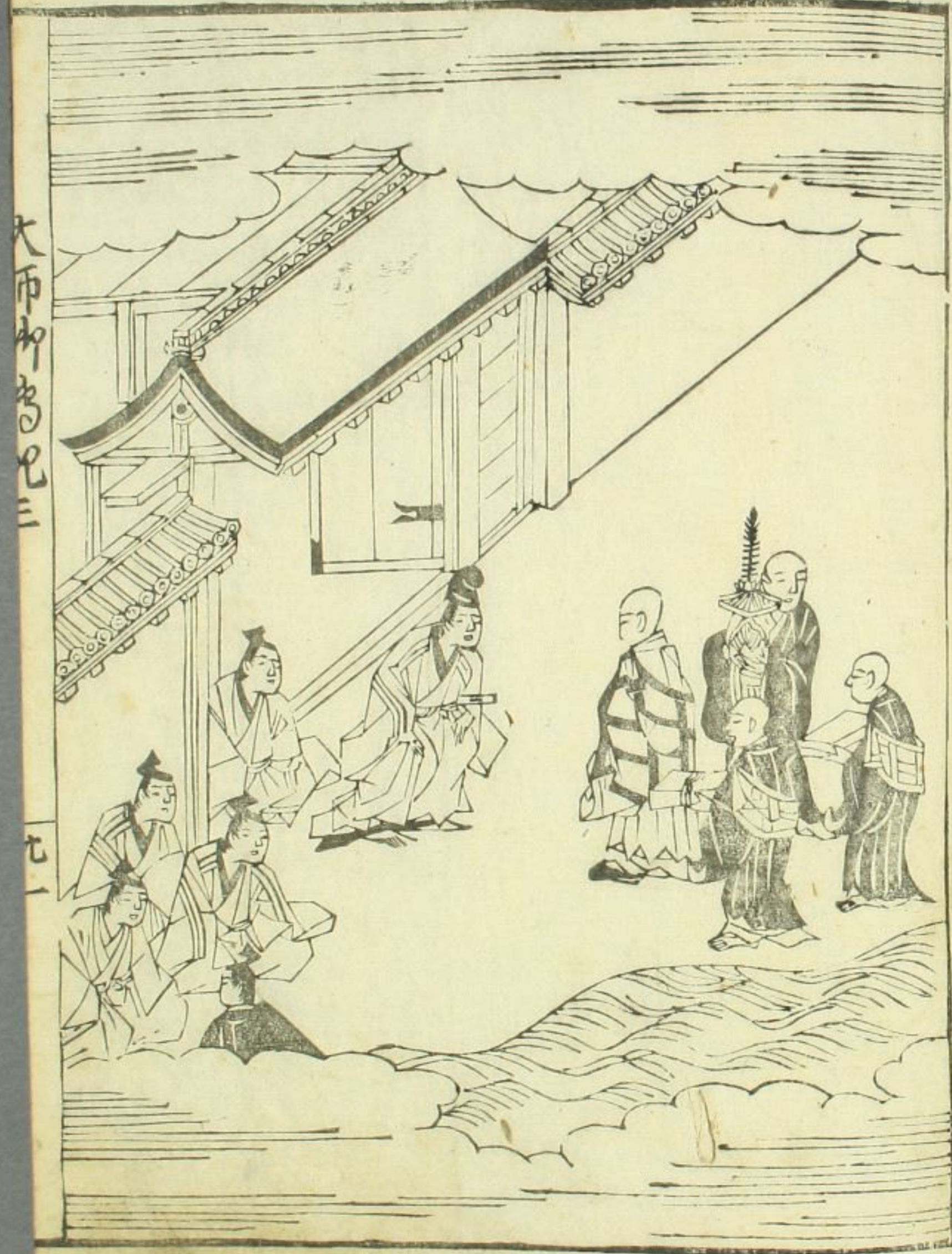
せあれども。されどはとあり。くりとせまうらひ  
 が。ふりり。げ。急あせと。所ところよ。ひろ。あ。じ  
 し。す。さ。ぬ。ひ。わ。が。師し。惠めぐみ。果は。大おほ。わ。尚なほ。よ。か。く  
 ら。ざ。り。し。に。ゆ。ま。は。は。い。し。ゆ。た。さ。り。り。國くに。母  
 へ。り。し。り。か。ま。ね。て。ま。り。し。あ。が。り。か。ん。て  
 わ。く。し。あ。ぬ。ゆ。ま。あ。れ。は。い。あ。ざ。り。行ゆ。く。ま  
 に。が。り。あ。り。ま。ね。た。ら。あ。ん。た。て。ま。り。つ。も。は。い。ん  
 え。ん。た。め。か。り。ん。の。て。は。と。さ。ゆ。く。と。あ。も  
 俣たもと。り。な。終はつ。ば。は。年とし。と。ま。ら。く。あ。い。ま。ん  
 ま。あ。づ。く。腹はら。が。年とし。あ。く。ば。あ。え。さ。り。さ。て。海うみ。海うみ。ん  
 ふ。く。み。ま。り。り。方かた。室むろ。あ。れ。い。あ。ん。や。う。よ。か。さ。ね

て。あ。い。そ。ま。り。ん。は。た。ら。び。く。し。祿しやく。ぐ。く  
 一ひと。約やく。の。ほ。う。あ。く。ど。ゆ。ま。よ。あ。い。し。そ。ま。り。あ  
 へ。し。と。あ。く。は。け。い。や。く。ま。し。く。て。業わざ。提たい。子し  
 の。は。ど。め。ど。と。あ。い。し。あ。く。ま。え。海うみ。わ。あ。り  
 こそ。ま。り。因いん。物ぶつ。よ。の。ま。う。ひ。け。り。の。い。の。ま。ま  
 つ。る。あ。い。の。腹はら。が。あ。い。し。と。ま。ら。あ。い。て。あ  
 ぐ。腹はら。と。わ。り。ま。り。し。あ。う。わ。い。し。海うみ。と。ら。ま。り  
 け。い。海うみ。あ。い。あ。り。し。あ。う。ま。り。や。ま。り。く。あ。い。し  
 あ。い。ど。と。い。し。あ。い。し。あ。い。し。あ。い。し。因いん。象しょう。と。ま  
 せ。た。ら。い。し。り















天竺  
子  
三

三

